

川南町議会・令和6年9月定例会一般質問【 中瀬 修 議員 】

(令和6年9月11日 午前10時53分 開始)

○議員（中瀬 修議員） 通告に従い、さきに提出した質問をさせていただきます。

まずは、真夏の選挙戦で新町長が誕生し、早いもので1か月を迎えました。宮崎町長におかれましては、これからの川南町のために先頭に立ち、様々な困難に立ち向かわれると思います。川南町をどのような色に染めていかれるのか期待感でいっぱいです。

私たちは相互に牽制、抑制と均衡によって緊張関係を保ち続けることが、今後も町民に求められると思います。我々は適度な緊張感とバランスを保ちながら、互いに対等な立場で川南町の未来のために、積極的な政策提案を通して適正な町政運営を進めていかなければならないと感じています。

今回、宮崎町長が選挙戦での公約を町民に投げかけられてきた中から、幾つか質問をさせていただきます。

まずは、人口減少対策と超高齢化対策についてお尋ねします。

人口減少と超高齢化問題は、日本の大きな社会問題として捉えられています。人口減少対策として、町長が選挙の中で訴えてきた、川南町でまず一番に必要なことは何だと考えますか。

次に、高齢化は日本で進行している社会現象でもあると思われます。川南町ももちろん同様にあります。川南町の高齢化対策は何だと感じますか。

それから、町の人口が減少していく中で、定住促進の支援をどのようにお考えですか。

まずは、この質問を行います。後の質問は質問席からさせていただきます。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えいたします。

定住、人口減少、少子高齢化について、一番大切なものは何かと問われました。

私が一番大切というのは、福祉と捉えています。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 福祉ということで、いわゆる町民全体の幸福というところを願ってというところを、今、町長がおっしゃられたかと思います。これは私たち議員も同じ考え、もちろん私もそのとおりでございますが、政府が発表している令和2年高齢社会白書によると、日本の高齢化率は総人口に占める65歳以上の者の割合が1950年の5.1%から2020年には9.3%上昇、2023年には29.1%と、過去最高を更新しているとのことです。

一般的に、高齢化率が21%を超えた社会を超高齢社会と呼ぶことは承知しておられると思います。高齢者人口は2042年にピークを迎えられるそうですが、その後は減少に転じると推計されているようです。

一方、懸念されている高齢化率は逆に上昇傾向を続け、2065年には38.4%に達し、国

民の約2.6人に1人が65歳以上になると見込まれていることが予測されているようです。

昨日の同僚議員の質問と重複しますが、改めて、今後の川南町の高齢化社会をどのように取られ、超高齢化対策として高齢者に対する支援をどのように講じていくのかお尋ねします。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

私が、町長選挙の際に、高齢者に優しいまちづくりを公約とさせていただきました。子育て世代には様々な支援策が実施されていますが、高齢者に対する支援は、支援を受ける当事者にならないと支援があまりないようにも感じられます。

具体的な支援を講じるかという質問ですが、内容については今後の課題と考えています。これまで社会に貢献していただいた高齢者の皆様の豊富な経験を、若い方々や子供たちの交流を通じて次代に伝えていただき、社会に必要とされている仕組みづくりを進めてまいりたいと思います。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 様々な課題を一つ一つ解決しながら、これから進んでいかれると思います。

身近なところで私が感じているのは、やはり、まだ両親は健在ではありますが、両親が住んでいる山間地、その地域は本当に高齢化率が高い。ましてや子供たちが一緒に同居していないという状況の中で、一番、いわゆる買物弱者とか病院に行く通院弱者というところの一つにもなっていくかと思います。そういう部分でのいろんな免許を返納したりだったり。それから、行く交通手段というところ等も難しい状況になってくる、この高齢化社会の目の当たりにする川南町の課題もあると思います。

そういうところで、何か早め早めに手だてをやっていないと、2065年、まだ先のような話にはなりますけど、もう私も半世紀を過ぎた人間の一人で、いつか来るこの高齢者の仲間入りをする一歩手前にある。そのときに、僅か2.6人に、若者に支えてもらわなくちゃいけない状況というところが、本当に、未来へ輝く、町長が掲げられているスローガン、そこにつながるかどうかというところが、本当に今からじゃないと難しいんじゃないかなと思っております。

その点に関してはいかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

今現在、高齢者の方々の環境については、私自身も課題があると捉えています。このことに関しては、担当課等、職員等で議論を進め、早急に解決の道を探りたいと思います。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 私たちも、議会としていろいろな提案をさせていただきながら、質問をこれからもさせていただきます。

今、高齢化社会というところで超高齢社会のことを話しましたが、やはり人口問題

というところになると、出生率とか、そういうところにもつながる部分も考えていかななくちゃいけないと思います。

先ほど、様々な子供たちを育てていく中での支援というのは、大いに国のほうからとか、町からもあるということをおっしゃられていましたが、やはりこの川南町に住んでいる人たち、これから住もうという人たちが魅力を感じるような政策というところは、今後どのような感じで考えられておられますか。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

最初に私が申し上げました、一番大切なものは福祉と捉えています。福祉については、親御さんであったりお子様であったり、また若い人、そして高齢者全てに通じるものと感じています。

この福祉についてしっかりと充実した策定ができるように、各担当課と協議の上、進めていきたいと思っています。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 本当に全ての町民も、健康な人も、体に障害を持っている人、いろいろな形で生活をハンディキャップを持って行っている方々、全てが本当に幸せな生活が送れるこの川南につくり上げていく、そういうところでは本当に町長の今おっしゃっている福祉というところを私たちも大切に考えながら、またいろいろな質問としてさせていただきたいと思います。

続けて、定住促進支援についてお尋ねします。

こちらも、同僚議員がこれまで一般質問されていまして、重複するかと思われます。その中で、宮崎町長が考える、今の川南町にとって特にここを力を入れたい、ここを推し進めていきたいというものがあれば、お知らせ願います。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

定住促進については、昨日もたくさんの御質問を頂きました。その中でも、私が一番川南町で取り組んでいかななくちゃいけないということに対しては、仕事、それから住居、この2点だと思っています。先ほど言った一番大切なというのは福祉、この3つが整わなければ、町外の方々、また町内に住んでいる方々に対しても、ぜひ川南町で住んでいただきたいという、かなえられるものが達成できないと思っていますので、しっかりとこの仕事、住居、福祉、このことについてはしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 確かに生活をしていく中では、働く場をしっかりと整えてあげる、それから安心、安全な場所で生活をしていくための住居を用意してあげる、そして、それらでいろいろ教育とか、安心して通える学校、そういうところに子供たちは、もしくは親は預ける、預かっていただくというところになっていくかと思います。

それだけではないんですけど、福祉としていろいろなものが本当に多方面に多樣的に

求められていく中で、仕事としていろいろ働く場の、大手のいわゆる企業を誘致するかそういう部分だけでなく、住居ということは今、町長がおっしゃったんですが、その住居の部分でいろいろこれまでに、8月に日向灘沖の地震が起きた、それからこの間、台風10号が通過した。そういうところでは、これまでに本当にいろいろな、小さかったり大きかったり災害はありましたけど、インフラが壊れるような川南町ではなかったかと思うんで、安全的な部分をもっともっとPRできるんじゃないかなと思う、生活していく場所として。

そこで、住居として今、どのように今後、定住していただくように働きかけようとしているのかお知らせ願います。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

住居という質問だったと思います。

私が選挙期間中、また各地域を回らせていただいたときに感じたのは、町営住宅がもう空き家が多くて、実際には、川南町もいろんな町営住宅については考えていると捉えています。ただ、あまりにも町営住宅の空き家が多く、この問題はしっかりと町営住宅の在り方等を含めて考えていかなくちゃいけない。

それから、川南町の町有地があります。そういったところに町独自の資本を投資してやるのか、もしくは町有地を貸し出し、民間の資本でそういった住居等に対応する、これも大事なことじゃないかなと思っています。

これは本当に今の町営住宅等については、新規で建てられたところもありますが、過去に50年以上たっている町営住宅については、見直し、それからどう対応するのかという策定を進めたいと思います。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 以前の議会の中でも同僚議員の中から、大手の企業ではなくて小さな中小企業等を誘致、招致するということもあるんじゃないか、もしくは地場、いわゆる地元の今、事業を行っている、もしくはこれから事業をしようと、したいと考えられている方、そういうところにも目を向けてやっていくことで、先ほどのような町有地の活用というところがうまくつながっていくような気がします。

そこで、定住を進めていく中で、何も事業だけが問題ではなくてその居住地を、特にいわゆる言い方を変えるとベッドタウン化というか、川南を拠点にほかのところに仕事に行くとか、そういうことも考えられるんじゃないかなと思います。

そういうところのお考えというのは、町長としてはいかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 川南町は、私が考えるには安心、安全、近隣の高鍋等も含めて考えた場合には、非常に安心なまちだと思っています。このことを、表現が悪いかもしれませんが、このことを町外からの武器、ツールとして、町外からの川南町に移住してもらうためのツールとして活用していきたい、そういったことをしっかりとアピールして、移住者の導入を考えていきたいと思っています。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 定住促進支援については、今後もまた、いろいろな角度から質問をさせていただきたいと思っております。

それでは、町営野球場についての質問のほうに移らせていただきます。

改修工事がようやく完了し、これからこけら落とし等を皮切りに、いろいろなボールパークといいますか、野球を中心としたそういう動きが始まるかと思いますが。改修工事完成後の利用計画をお知らせください。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

野球場の活用ということですが、以前は春季・秋季キャンプで多くの社会人野球チームや大学野球チームが川南町を訪れ、町に活気を与えてくれたと思っています。2027年の国スポ・障スポを控え、整備された野球場を最大限活用し、より多くの利用があるように進めたいと思います。

9月21日に土曜ですが、こけら落としとして、両中学校野球部の試合や元ソフトバンク選手による野球教室を計画しています。こけら落とし後には、大学野球リーグの試合が計画されています。また、予約も既に入っています。また、キャンプを視野に、視察に見えられる大学や社会人チームもございます。

川南町の野球場を使っていただける方々を大切に、整備された施設の稼働率を上げる努力が必要だと感じています。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 国民的スポーツという形で捉えていいか分かりませんが、野球という、誰もが興味を持てるスポーツですから、このスポーツに、せっかくすばらしい球場と変わっていくわけですから、そこをうまく活用していろんな秋季・春季のキャンプ誘致というところをどんどん積極的にしながら、外貨を川南町に取り込んでいくというところは大事ななと思っております。

そこでキャンプ誘致というところで質問させていただきますが、今どの程度話が進んでおりますか。

○町長（宮崎 吉敏君） 詳細については、担当課のほうから報告いたします。

○産業推進課長（河野 英樹君） 野球場の改修工事完了を見据えて、令和5年度より関西のエージェント、こちらは合宿に特化した旅行代理店を指しております。こちらに向け、公益財団法人宮崎県観光協会スポーツランド推進局と連携しながらセールス活動を行ってまいりました。

令和5年度のセールス実績としましては、主に野球とサッカーの社会人野球の合宿、大学生の部活動の合宿に特化したエージェント4社、具体的に申し上げますと株式会社ジャパン・スポーツ・プロモーション、株式会社エイチ・アイ・エス、名鉄観光サービス株式会社、日本トラベルセンター株式会社、こちらを巡りまして、直接、改修後の野球場や当町にあるスポーツ施設について御説明をさせていただきました。

令和6年度にはその中の3社が実際に当町に現地視察に入られ、とてもよい反応をいただいているところであります。現時点では確定ではないので社名は控えさせていただきますが、社会人野球につきましても、監督とゼネラルマネジャーがじきじきに野球場を視察され、とても好反応をいただいているところでございます。

今後も、誘致につながるように努めてまいりたいと考えております。

そこで、春キャンプ、春季キャンプにつきましてですが、セールスの成果もあり、現時点でも多くの問合せをいただいているところでございます。今年度につきましては、お問合せいただいたエージェントごとに、期間を設定して割り振りをさせていただいているところです。

秋キャンプ、秋季キャンプにおきましては、宮崎の気温が高過ぎることや、多くの場合、比較的過ごしやすい気温の地域に合宿地を構えるケースが多いようでございますので、その時期の誘致については課題もございます。そのため、例えばですが、合宿の時期にとらわれない大学のサークルなどを誘致するなどの工夫も、利用率向上のためには必要かと考えます。

以上でございます。

○議員（中瀬 修議員） 様々な方面にキャンプ誘致を働きかけている、声をかけているという状況が今、分かりました。

ただ、これまでに川南町で大手の、大手といいますか、日本ではトップクラスの社会人野球チームが、都市対抗にも出るようなチームがキャンプを行っていましたが、改修工事前でしょうか、そこから別の会場に移られたというところで、またせっかくこういういい球場ができたというところでいけば、町民の方からも言われているんですけど、そういういわゆるプロの卵がたくさんいるチームを呼ぶことで、そのプロの卵を目の当たりにしながら川南町が応援していくということも、また、盛り上がる一つになるんじゃないかということを知っていて、また、そういうチームを呼び戻すという努力も必要なんじゃないかなと思っておりますが、町長いかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

過去に企業がキャンプでお越しいただいております。ここについては再度アクションをかけていきたい。ただ、いろんな会社の事情もあるみたいです。できれば、今おっしゃった川南の事業者との関係というのも物すごく深いんですね。ですから、もう一回、そこは見直していきたいというふうに考えています。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） キャンプ誘致に関しては大いに期待しながら、また、これから町の動きを見させていただきたいと思っております。

キャンプ誘致と伴ってその空き時間の、空き時間といいますか、空いている、使用していない時期、いろんなキャンプにはちょっとというところの時期に関して、大会等誘致して開催するというのも、一つのまた考え方かなと思います。何も野球場だから野

球をしなくちゃいけないというわけではないと思います。

うまく芝生を活用して、そのスペースで何かができる、スポーツだったり文化面だったりというのがありますが、その辺りで大会誘致を御検討というのはいかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。大会の誘致についての質問でした。

過去に5年間、川南町でそういった大会の誘致というのが行われておりません。ただ、すばらしい施設ができたということも含めて、担当課としっかりと協議しながら、誘致が可能かどうかも含めて協議していきたいというふうに考えています。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 本当にすばらしい施設を有効に活用するために、いろんな角度から様々な声を生かしながら、またこれから進めていただきたい。これはキャンプ誘致も大会誘致も同じかなと思っておりますので、またいろんな考え方を出示していただけたらいいかなと思っております。

最後に、先ほど町長のほうからもありましたように、2027ひなた国民スポーツ大会・障害者スポーツ大会というのが、もう3年もないぐらいになってまいりましたが、この川南町では軟式野球いわゆる成年男子、「なるねん」という大人の野球、軟式野球が開催会場の一つとなっております。ほかは延岡市、日向市、門川町、西都市、高鍋町という6会場で行われますが、この国スポで、川南町がどのくらいの規模でやるのかということが、今、分かっていれば教えていただきたいんですが。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

どの規模でということについては、1回総会が開催されました。ただ、その中で具体的な、県のほうから具体的なお示しはありませんでした。ただ、おっしゃったように、軟式野球の会場に指定されています。

今後、県との担当課も含めて、県との協議の中で、今後お示しできればなと思っています。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 国スポ、省略して障スポと言わせていただきますが、本当に1巡目の宮崎国体からこの2巡目という形で、本当に国を挙げて、いわゆる宮崎県を挙げて、そして盛り上がっていかなくちゃいけない一つかなと思っております。

特に、野球というメジャーなスポーツを、この川南町で1会場として選んでいただいているということですので、ここは川南町も、もっともっといろんな形で力を入れていかなくちゃいけないんじゃないかなと思います。

そういうところでは、これから時間も迫ってきていますので、どのような形で、この川南町だけではないんですけど、いろんな委員会をつくったりとか、何か協議会みたいなことってものを計画等がありますか。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

おっしゃったように、委員会等については今後の課題だと思っています。まだ、具体的にどういう形でというのは決まっておりませんので、進み次第、お答えしたいと思います。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） せっかく全国レベルの大会という形になって、全国からこの川南町、どこのチームが来るか分かりませんが、川南町に来るわけですから、将来的に、先ほど話を戻せば定住促進等にも、もしかしたらつながっていく可能性もあるかなと思っています。そういう意味では、まずは町長からいろんな発信をしていただきたいなと思っています。

最後に、そういう部分での何か答弁があれば、それでお願いしたいと思います。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

私の仕事の中に川南町PR、そして、様々なところに出向いてお話をする、これも大事な仕事だと捉えています。ですから、今回の国スポ等についてもチャンスと捉え、しっかりと各企業、関係者、いろんな方々に御説明をし、川南町のPRをしてまいりたいと思います。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 以上で終わります。

（ 午前11時29分 終了 ）